

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773600446		
法人名	有限会社 エヌケイカンパニー		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	交野市妙見坂7丁目6-9		
自己評価作成日	平成26年6月23日	評価結果市町村受理日	平成26年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年8月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の過ごしやすい家族のような空間作り、コミュニケーションの構築、一人一人の利用者に対する尊厳、傾聴。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成15年2月に開設後、昨年12月改築し利用者6名から9名に増床した、1ユニットの木造戸建ての単独型事業所である。隣接地には公園があり、自然の豊かな丘陵地の閑静な住宅街に位置している。入居者には、家族と疎遠な状況の生活保護の利用者も多いので、このホームを理念に謳う「団欒」の、温かい家族的な雰囲気での暮らしを、管理者・職員は目指している。利用者の日常は公園への散歩やスーパーでの買い物、外食や、喫茶店へ立ち寄りなど気分転換の支援も取り組まれている。食事は利用者の希望に配慮した献立で、職員の手作りである。健康面では、提携医の往診や訪問看護師による医療管理が行われるとともに、週数回、精神科クリニックの送迎で、認知症デイケアの医療サービスを受けられるような支援も取り組まれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	団欒と言う理念を掲げ、地域の認知度の向上に努め利用者との家族関係のような関係の構築達成に日々努めている。	事業所理念を「団欒」と定めてフロアに掲示し、利用者と職員がともに家庭的な環境で過ごせることをモットーにして、共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣付き合い、自治会への参加等交流を深めている。	事業所の代表者兼管理者が自治会の役員を務め、近隣住民との付き合いを積極的に行い、地域住民との交流を図っている。交野市のグループホームがまとまって毎年、合同行事を開催するなど主導的な役割も努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの認知度の向上を高め介護事業所として情報発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の問題外部の方の意見を取り入れサービス向上に生かしている。	地域包括支援センター職員、民生委員、管理者等で定期開催し、運営状況、行事予定などを報告し、意見交換している。AEDを購入予定で、管理者は今後、会議で近隣への講習の提案検討など地域連携や、啓蒙活動を模索している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々連絡を取る他グループホーム連絡会を通して協力関係を築いている。	昨年度は、増床改築のため行政担当部署との事前相談や確認作業等で密な連携を行っている。生活保護の利用者が多く、福祉保護課に手続き代行や相談・情報交換をしている。介護相談員の受け入れもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を徹底している	管理者及び職員は、身体拘束をすることの弊害は理解している。玄関、エレベーターは施錠はしていない。見守りを重視し、開放感が得られるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が前年度虐待防止会議に出席しスタッフ全員徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護を研修によって学び職員全員に周知活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を持って理解、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と家族の意見を取り入れ外部の意見も聞き運営に反映している。	生活保護の利用者が多く、家族との疎遠な関係の方もいるが、できるだけ本人やキーパーソンの要望・意見等を聞く機会を設け、それらを事業所の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見提案を職員から聞き反映している。	管理者は日頃から、風通しの良い職場づくりを心掛けている。日常のケアの場や、毎月定期的に行われる、ミーティング時に職員の様々な意見・提案を聞く機会を設けて、運営に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力を認め労働条件の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に実力を向上する機会を設けスキルアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に於いて交流を密にする他他のホームに出向き意見交換をしサービスの向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴により本人との密な関係作りに勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族のセルフケアも含めた上で家族の不安、困ったことを解消する様な関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとってどの様な支援が適しているか相談、紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族団欒と言う理念の下に家族としての関わりを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に頻繁に来ていただき家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を連れて出向いたり、話題を提供し対応している。	入居前の生活歴や人との関わりの把握が困難な利用者には、ホームを中心とした社会との交流を新たに形成するような関係づくりに努めている。寮母をしていた時の、会社の友人が訪ねてきた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の家族意識が出るような話題の共有、助け合いの場面を作るよう勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取ったり場合によっては来られることも有り関係が希薄に成らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の立場に立ち本人の考えを尊重している。	日々の関わりの中で、本人の思いや希望を聞き取り、把握し職員間で共有している。意思の表出が困難な利用者はその場での態度や表情などから本人本位に意向を汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のデータや聞き取りによって理解、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化するADL,IADLを把握する事に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と本人を囲む関係者での会議により支援計画を作成している。	入居前の医療や介護サービス事業所の情報などをもとに介護計画書を作成している。介護支援記録の日報や、サービス担当者会議等で本人のケア情報を収集して、定期的および状況変化時に計画の見直しを実施している。アセスメントにセンター方式の部分活用も検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の蓄積を共有し介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あらゆる地域資源を把握必要に応じて利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間提携のかかりつけ医に相談その時の適切な医療支援を行っている。	提携医をかかりつけ医としている利用者が多く、月2回往診がある。週数回、精神科クリニックの送迎で、認知症デイケアの医療的リハビリを受けられるような支援もしている。歯科受診は職員同行で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とのかんけいを密にし医療支援に結び付けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の家族代理として医療機関と関係を構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を想定したときどこまで等ホームで可能か説明理解していただいている。	利用契約時に重度化の場合の指針を説明し、同意を得ている。ホームで看取った事例はないが、協力医師および訪問看護師との24時間連携で、ケアが可能な限界まで支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時の体制を全職員構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に当ホームを認知してもらい全職員と協力出来る体制を築いている。避難訓練を2回/年行っている	年2回の法定の訓練を実施し消防署の協力のもと消火器使用、火災通報、シューター利用での3階からの脱出などの想定避難訓練を行っている。備蓄も心掛けている。近隣居住の職員の即応体制も築いている。	法定の消防訓練が実施されているが、毎月の会議の機会などに机上訓練も含めて、災害時の避難や夜間想定等のミニ訓練等で全職員の緊急時対応の向上の取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を常に一人の人として関わり尊敬し対応している。	利用者の一人ひとりの人格を尊重した対応に努めるとともに、プライドに配慮しつつ、他人行儀過ぎる呼称や対応でなく、その人が好ましいと思われる接し方を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し希望、自己決定の実現に導く努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の始まりに希望を聞き実現するように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感、おしゃれ、身だしなみは個々にあった対応をし支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみの時間に成る様に家族団欒な食事時間(用意、後片付けも含む)を構築している。	全食、職員の手作りである。食材は利用者と共にスーパーなどに買い物に行く。利用者の嗜好を聞き取り、食事作りに反映させ、職員も同じものを食べている。きざみ、とろみ付けなどの対応も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食べる量、バランスを個々に把握記録によって支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを知ることによって自立支援している。	排泄の自立の方もいるが、リハビリパンツ、パット使用の利用者が多い。「介護支援記録」に排泄の状況を記録してパターンやリズムを職員が共有・把握して、トイレ誘導を促がすなどの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	快便を目指し食べ物、運動を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決めているが本人の希望も受け入れ対応するように勤めている。	入浴は週3回を基本にしているが、利用者の体調や希望に合わせて柔軟に取り組んでいる。強固な入浴拒否の方はいないが、時間をずらして気分転換を図るなどの対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良眠、安眠出来る様個々の生活リズムを把握支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で薬について理解し症状の変化を見逃さず対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者にとっての楽しみの把握、生活での役割を考え対応し、気分転換も考慮した支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に個々及び全員での外出支援を行っている。	隣接の公園への散歩やスーパーでの買い物など利用者の体調に合わせてながら外出の支援をしている。寿司店での外食や、喫茶店へ立ち寄りなどの外出の機会もある。管理者は、1泊旅行の構想も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で金銭の管理をしながら本人との相談の上で使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話等外部とのやり取りを促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家と言う感覚を大切にしている。	窓越しに公園の緑が望める食堂兼リビングはベランダに接する開口部が広く明るい。利用者の作品の絵や書などが飾られ、マッサージチェアも置いている。動画や音楽を楽しめるテレビ設定もしている。改築したばかりの台所、居室、トイレ、浴室も清潔であり、居心地よく過ごせるような工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士居所を自由にできる様に支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意見を第一に尊重した空間になるよう定期的に相談に応じている。	居室は1,3階にあり、窓からの光が明るい。ベッド、カーテン、エアコン、扇風機、物入れやタンス、テレビも設置してある。仏壇を持ち込まれた利用者もあり、居心地よく暮らせる居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクのない安全な生活空間をイメージし具体化している。		